

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502785		
法人名	特定非営利活動法人 実りの里 りん		
事業所名	グループホーム 凜		
所在地	札幌市白石区米里3条1丁目2番4号		
自己評価作成日	平成22年6月1日	評価結果市町村受理日	平成23年1月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームの入居者の高齢化が進んで個々の体力に差があるものの毎日実施している(天候、健康状態を考慮して)散歩と散歩を通して行われる地域住民との交流は入居者の健康の増進と社会性の向上に大きな成果が得られており住宅地に立地する当ホームの利点でもあると自負しています。今年から春夏秋期にはパークゴルフを実施しており施設周辺に公共のコースもあります。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigooho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170502785&amp;SCD=320">http://system.kaigooho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170502785&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成22年11月18日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅地に立地し、1Fがグループホーム、2Fが訪問・居宅介護事業所と高齢者下宿として地域と密着した生活が営まれています。夜間帯も2名の職員が勤務しており、利用者の安心と安全が守られています。体力維持を目的とする日課の散歩は年間を通して行い、利用者の健脚維持と健康管理に役立っています。また、ホームの車両を利用して外出も多く、活発に活動しながら職員に見守られ穏やかな暮らしが継続されています。ホームからの連絡や運営推進会議の議事録を毎回郵送して、家族からの信頼を頂いています。高齢者介護に精通した運営者のもとで、職員は利用者寄り添いながら出来ること、出来そうなことを見極めながら、優しく寄り添う介護が実現されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I.理念に基づく運営</b>						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は理念を共有、熟知し実践を行っている。定期開催されるカンファレンスの中で理解を深め実践の方法を常に話し合っている。	職員採用時は、ホームの理念を詳しく説明しています。理念に沿ったケアが実践されているか日々確認しながら、地域の一員として過ごしています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	可能な限り町内会行事に参加している。町内会長や地域住民との交流を図っている。具体的には町内会ゴミ拾い、新年会、敬老会、夏祭り、野外パーティー等に参加している。	近隣や町内会からの好意的な協力を頂きながら町内行事に参加しており、日常的に地域の一員として交流をしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	会長を通した近隣に生活する高齢者の方々の受け入れが可能であることを伝えている。また毎日の散歩の時にゴミ拾いをしながら歩く事を実践しており地域の環境保全に貢献している。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で提出された意見を元にサービスの改善の目標を立てその成果については次回の会議にて報告を行う事でサービスの質の向上に努めている。	家族、地域包括センター、町内会役員の参加で、2ヵ月毎に開催していることを議事録で確認できます。会議に出席出来ない家族にも議事録を毎回郵送しています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	都度必要に応じて電話等でサービス向上に関する相談や報告、意見交換を行っている。制度変更に伴う関係書類提出に当たり文面では分かりづらい事が多々あるため必ず電話か訪問で確認している。	主に市の介護保険課や保護課と密接に連絡を取り合い、ホームからの質問や相談をして、アドバイスを頂いています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者並びに全職員は指定基準における禁止対象となる具体的な行為を理解している。玄関施錠は行っていない。	カンファレンスで職員全員が学び理解しているため、身体拘束をしないケアの実践に努めています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンス等で高齢者介護を行う者としての倫理観を話し合い職員相互に目を配り虐待を見過ごさないように努めている。カンファレンスの後に虐待防止の研修会を定期的に行っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は研修や施設内での勉強会を通して事業内容や制度の活用についての理解を深める必要に応じて入居者の方々を支援できるような体制を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い説明事項の各所に疑問点や不明点がないか確認しながら説明を進めている。不明点があればいつでも説明させていただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見、不満、苦情について苦情処理マニュアルに沿って対応が行われているが内容を精査して話し合いの場を設けて質の高いサービスの提供に心掛けている。常に要望を伺っている。	家族の訪問時には、心配事や意見要望を出しやすいように、職員が声を掛けています。頂いた意見は運営に反映しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的開催しているカンファレンスの中で意見や提案を聴く機会を設けている。	毎回のカンファレンスで職員から意見があり、備品の購入や業務内容に反映しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職場環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部開催研修の情報については随時周知を行い必要に応じて参加を促している。研修参加に伴う勤務調整も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開催のGH管理者会議等に管理者は出席して同業者との交流、情報交換に努めサービス向上に活かせるように努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面談から本人の要望を十分に把握して施設の説明を行い理解を仰ぎつつ最大限リロケーションダメージの緩和に努めながら徐々に信頼関係の構築を進めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面談で施設の基本理念や取り組みについて十分に理解していただき要望の把握を行いながら家族の方々が安心していただけるサービスの提供に心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時本人の話を傾聴しながら身体状況や環境を考慮しながらサービスの提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者の方々の出来ない事を支援する一方で人生の先輩である入居者の立場を踏まえ生活の知恵や体験談を学び共に成長できるように努力している。入居者と職員の間においても互いに失礼のない人間としての立場を尊重し合える関係が築かれている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事等に気軽に参加していただき家族の入居者に対する想いやこれまでの生活歴、将来に対する希望を聴かせていただくと共に施設の支援方針等をお伝えして共に入居者の生活を支える関係作りを行っている。どの家族とも親和に語り利用者の話又は世間話を心から楽しむ事が出来る。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や手紙については積極的に利用が出来るように支援を行っている。施設への訪問や近親者宅への訪問も支援している。入居前の人間関係の継続に積極的に支援を行っている。	初詣や墓参り、馴染みの店での買い物にホーム車両を利用して出来る限り、利用者の望む関係継続の支援をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者が孤立する事のないように食事の席や行事等での配置も工夫している。又、良好な関係が築かれるように職員が介入しながら支援を行っている。利用者同士が思いやり助け合える場面を創出出来る支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された入居者や家族の方とは契約が終了しても連絡が取れ相談が出来るように配慮している。お便りを送っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前から本人や家族から要望を十分に聴き取り入居後のリロケーションダメージを緩和しその人らしい生活が送られるように支援を行っている。生命の維持に影響を及ぼさない限りにおいて本人の希望把握と実現を目指している。	リクエストのある食事メニューは献立に取り入れています。利用者の希望を優先し、把握が困難な場合であっても利用者の視点で検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に情報を収集した内容については個人ファイルを作成して個人情報（生活歴、サービス利用の経過）を集約し把握に努めている。新入居者についても全職員に個人情報の周知を図り情報の共有を図られるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の生活はその方のADL、嗜好により一人一人違いご本人の有する力、又は好ましい生活様式を家族や人との関わりが作る多くのご本人の表情、疲労感等によって把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者個々の身体状況や精神状況に合わせた介護計画を作成している。介護計画作成時には事前に本人又は家族にモニタリング結果を報告し要望を聴き取りケアマネと職員が意見を出し合い入居者の実情に迫るプランの作成に努めている。作成後は本人、家族に十分に説明し理解をいただいた後に支援を開始している。	3ヵ月毎の介護計画を家族と相談し、要望を取り入れた内容で作成しています。入院や状態に変化が見られた場合は、現状に即したように変更しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の個別の情報ファイルを作成して入居から退居までの記録が記され保管されている。記録は入居者毎に担当を決めて日々の変化や状態が分かり易いように記録、介護計画作成に活用されている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者やその家族におかれた環境の変化によって柔軟に対応して必要なサービスの提供を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会、商店、民生委員、ボランティア、警察、消防との協力体制を取っているがより一層協力体制を広げ良質なサービス体制を目指している。特に火災への取り組みは消防署立ち会いで昼夜を想定した訓練の実施と綿密なマニュアルの作成を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月4回の訪問診療を受ける事で身体状況の変化を把握していただいている。特変時あるいは緊急時には受け入れの体制が整っている。	内科と歯科の訪問医療を受けていますが、かかりつけ医にもホーム車両で職員が同行し、受診しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所として看護職員を配置して訪問診療との連携を図り入居者の方々の健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関との間で入退院の連携が取れており病院側にも早期退院による認知症及びADLの低下予防を理解いただいている。情報交換を密接に行いながら入居者の方々が安心して入退院が出来るように支援を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に看取りについて家族に説明を行っている。訪問診療、協力医療機関との連携を取り緊急時の受け入れ体制を整えている。終末期と判断された場合、医師、家族、ホームで話し合いターミナルに取り組みその人らしい看取りを行っている。また、カンファレンスで支援の方向性を常に話し合いながら家族との話し合いも適宜行っている。終末期の介護の勉強会も実施している。	利用開始前に重度化や終末期に向けての指針を説明し、同意書にサインを頂いています。利用者や家族の望む看取りが出来るように職員も研修を重ねており、既に数名の看取りも経験しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員が救命救急の研修を受講してカンファレンスの中で研修報告と実践方法について受講者からの報告に合わせ多様な場面を想定した勉強を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害に備えたハザードマップを熟知して災害時の避難経路、場所を確認して常に近隣住民からの協力も得られるように日頃から連絡体制を築いている。	年2回の災害訓練では、夜間の火災や水害、地震も想定しながら訓練しています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者にあっては自分以外の入居者の関係記録が他者の目に触れないようになっている。接遇についても個人を尊重して気持ちを傷つける事のないように配慮している。	利用者の誇りやプライバシーを尊重し、普段の言葉掛けやトイレ、排泄介助に気を配っています。個人情報については、適切に管理しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活を通して本人の希望を把握しながら可能な作業に専念している。毎日の着衣や献立の希望についても可能な限り自己決定出来るように支援を行っている。入浴準備も可能な限り本にと一緒に衣類を選ぶようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	季節の行事や散歩、体操、入浴ディ・ケア通所と言った日々の予定の中で利用者が無理なく自分のペースで参加出来るように支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った衣類、帽子、靴の選択をしている。外出が可能な方には理美容の支援、外出が困難な方には訪問理美容の提供を支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は健康状態を考慮しながら利用者の意見を取り入れるようにしている。旬の食材を取り入れ季節感に工夫している。常食が食べられない方や摂食量に制限がある方についても楽しんでいただけるような盛りつけや食器の工夫を行っている。	食事内容は、利用者の意見を取り入れ行事食の刺身や、外食でも利用者の望む物を出来る限り提供しています。普段は職員が食事介助をしており、職員の1名は利用者と同じテーブルで食事を共にしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の健康状態や医療的な指示に従いながら十分な水分量、栄養に心掛け調理、提供を行っている。食事の残食は一切なく水分は純水分で1,500～1,600ml無理なく摂取していただいている。チェック表を設け摂取量の確認を必ず行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きの声掛けを行いながら可能な限り自力での口腔内の清潔の保持に心掛けている。動作の自立度に応じて職員が一部介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の排泄サイクルを把握するために排泄チェックを行っている。利用者の身体能力に合わせて可能な限り排泄動作が行えるように自立支援を行っている（拭き取り動作、水流し動作、手洗い動作）。	排泄記録表で管理し、利用者一人ひとりの排泄パターンにあわせた内容の支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者の排泄サイクルを把握するために排泄チェックを行っている。排泄のリズムが崩れないように食物繊維の摂取量に配慮して散歩等適度な運動の確保にも努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴動作の自立している方の希望は考慮している。介助を要する方々については話し合いで入浴の順番を決めたり湯温の希望を聴くなど配慮を行っている。現在週3～4回の入浴を行っている。月1度位温泉に行き広い浴場でのびのびと入浴していただき心身のリフレッシュを図っている。	週に3回の入浴日の設定をしていますが、利用者の都合や外出などにより、日程が変更になった場合は、予定日以外であっても入浴が可能です。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の体調や習慣に応じた休息を提供している。良眠のための配慮として室温、湿度、音、光の調整を行ったりシーツ交換、布団干しを定期的に行い清潔な寝具の提供や昼夜逆転にならないように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者各人が服用している処方情報紙をファイルしていつでも閲覧出来るようになっており職員は定期的カンファレンスにて薬の目的などについて周知するとともに把握に努めている。処方の変更については職員が把握出来るように情報の伝達（申し送りノートの活用）に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	過去に習い事を希望する入居者に楽しみが継続できるように支援を行っていた。歌唱に関心のある方とは一緒に唄い、家事が出来る方には安全に参加していただけるように本人の能力に合わせ活かせる場を提供し支援を行っている（洗濯物干し、たたみ、野菜の皮むき等簡単な調理作業）春夏秋期の取り組みとしてパークゴルフへの参加を支援し入居者は楽しみながら参加して健康増進に取り組んでいる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	健康状態や天候を考慮しながら散歩はほぼ毎日実施している。行事等の外出についても健康状態を考慮して実施している。雨天、降雪時にはドライブ、近所のスーパーやプラザに行く等一日中家に籠もる事のないように取り組んでいる。	筋肉が低下しない事を目的に、年間を通して散歩が日課になっています。車椅子であっても外気に触れ、季節が感じられる取り組みをしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の自己管理が可能な入居者については訪問販売時（乳酸飲料、パン等）の支払いや近所のコンビニエンスストアへ希望の品を購入に行った折の支払いを支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙については積極的に利用の支援を行っている。筆記困難の方への代筆や電話は掛けられないが会話が可能な方への操作支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は家庭的で各自の居室を出ると茶の間があるという安心設計である。居間には観葉植物、書が飾られ心落ち着く環境への配慮がなされている。	就寝時以外は居間で集うことが多く、安心して過ごし、台所の音や香りなど、五感刺激となる居心地良い共用空間になっています。気になる光や音も感じられず温湿度にも気配りをしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のテレビの前にはソファが設置され窓際には広くたたみの椅子が設けられ入居者個々にゆとりのある生活を楽しんでいる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者個々の生活形態に合わせて馴染みのある本人の使い慣れた家具をお持ちいただいている。仏壇を持って来られている方には仏飯や仏花等の配慮も行っている。	居室には使い慣れた家具や、昔馴染みの備品、仏具が持ち込まれ、安心して暮らしていますが、窓の数や陽当たりにより、居室内の気温の差が感じられます。	共同生活においてはプライバシーが求められ、居室の意味は大きく、安心して過ごせるよう各居室に温室時計を設置し、利用者の好みの温度設定が出来るような配慮も期待します。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各人の居室の前には希望に応じて表札を飾り迷う事がないように配慮がなされている。自分の洗濯物をたためる方には自室へ運んでいただき収納までを支援している。またトイレの場所が分からなくなっても本人が気付けるように扉に札が取り付けられており混乱は緩和されている。		